

# 第1節 文化財の指定と調査・保護

## 1 指定文化財

県内の国及び県指定等の文化財は、次のとおりである。

第8-1表 新指定等文化財

区分	名称	所在地	所有者又は代表者	指定等年月日
国指定文化財 (有形文化財建造物)	東北学院旧宣教師館	仙台市青葉区	東北学院	H29.7.25
県指定文化財 (有形文化財建造物)	旧大沼家住宅	村田町村田	村田町	H29.2.21
(無形民俗文化財 民俗芸能)	上沼加茂流法印神楽	登米市上沼	上沼法印神楽神議会	
	松園虎舞	気仙沼市唐桑町	松園虎舞保存会	
	波板虎舞	気仙沼市波板	波板虎舞保存会	

第8-2表 文化財指定等件数(平成28年度末)

区分	種別	国指定	県指定	計	
有形文化財	建造物	21(3)	37	58	
	美術	絵画	2	14	16
		彫刻	8	28	36
	工芸品	工芸品	11	22	33
		書跡・典籍	5(2)	20	25
		古文書・古碑	1	2	3
		考古資料	8	9	17
	歴史資料	3(1)	12	15	
無形文化財	工芸技術	1	2	3	
	その他		1	1	
民俗文化財	有形民俗文化財	1	4	5	
	無形民俗文化財	風俗慣習	4	9	13
		民俗芸能	3	37	40
	風俗慣習・民俗芸能		2	2	
記念物	史跡	34(1)	15	49	
	史跡・名勝	1		1	
	名勝	5(1)	2	7	
	天然記念物	28(1)	31	59	
合計		136(9)	247	383	
・選定文化財 (国選定) (県選定)					
保存技術	選定保存技術	1		1	
伝統的建造物群保存地区		1		1	
・記録作成等の措置を講ずべき文化財 (国選択) (県選択)					
無形民俗文化財	風俗慣習	5		5	
	民俗芸能	4		4	
・登録文化財 (国登録)					
有形文化財	建造物	118			
	美術工芸品	1			

注1：国指定の有形文化財(重要文化財)の中で特に価値の高いものを国宝、国指定の記念物(史跡・名勝・天然記念物)の中で特に重要なものを特別史跡・特別名勝・特別記念物に指定している。

注2：( )内は、国宝・特別史跡・特別天然記念物の件数を内数で示している。

## 2 文化財の調査・保護

### (1) 埋蔵文化財の保護及び発掘調査等

#### ア 保護体制の整備

県の埋蔵文化財保護体制を充実させるため、以下の会議により調整を図った。

(ア) 東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議

○文化庁主催

○平成28年7月27日・3月17日(計2回)

○場所 福島県・宮城県

○参加者 文化庁・宮城復興局・岩手復興局・福島復興局  
宮城県・福島県・岩手県・仙台市  
奈良文化財研究所

(イ) 市町村文化財担当者会議

○平成28年6月17日

○場所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村文化財担当者

(ウ) 復興事業に伴う発掘調査にかかる連絡調整会議

○平成29年2月15日

○場所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村文化財担当者・文化庁・宮城復興局

#### イ 文化財保護管理指導事業

文化財保護地区指導員を県下市町村に各1人(仙台市4人、大崎市7人、加美町3人、栗原市10人、登米市9人、気仙沼市3人、石巻市7人、南三陸町2人)委嘱し、国指定の重要文化財(建造物)、史跡、名勝、天然記念物及び主たる埋蔵文化財包蔵地についてパトロールを実施したほか、文化財保護地区指導員ほかを対象とした以下の会議及び研修会を開催した。この事業は昭和49年度から国庫補助事業として実施しているものである。

文化財保護地区指導員会議

○平成28年4月26日

○場所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村担当者及び文化財保護地区指導員

#### ウ 基礎資料の整備

埋蔵文化財関係の基礎資料を整備し、その活用を図るため、遺跡台帳の整備充実に努めた。

#### エ 発掘調査

(ア) 平成28年度：埋蔵文化財発掘届等の件数(第8-3表参照)

○調査のための発掘届(法92条第1項) 5件

○土木工事に伴う届(法93条第1項) 1,525件

○土木工事に伴う通知(法94条第1項) 384件

○遺跡発見の届(法96条第1項) 0件

○遺跡発見の通知(法97条第1項) 8件

○教育委員会の発掘調査(法99条第1項) 507件

合計 2,429件

(イ) 受託事業による調査(第8-4表参照)

(ウ) 執行委任事業による調査(第8-4表参照)

(エ) 国庫補助事業による詳細分布調査等(県教委が主体もしくは担当した調査)(第8-4表参照)

(オ) 復興交付金による分布・試掘調査(第8-4表参照)

(カ) その他の調査(第8-4表参照)

第8-3表 埋蔵文化財発掘屈等件数

No.	市 町 村 名	92条	93条	94条	96条	97条	99条	計
1	仙 台 市	3	875	98			101	1,077
2	白 石 市		37	4		1	21	63
3	角 田 市		23	4			8	35
4	七ヶ宿 町	2	3	1			1	7
5	蔵 王 町		13	3		1	6	20
6	大 河 原 町			1				1
7	村 田 町		1	1			3	5
8	柴 田 町		8	3			6	17
9	川 崎 町		3	1			2	6
10	丸 森 町		13	11			6	30
11	塩 竈 市		4	4			6	14
12	名 取 市		43	11			33	87
13	亘 理 町		18	3			12	33
14	山 元 町		7	2		1	7	17
15	岩 沼 市		15	4		2	15	36
16	松 島 町		17	10		1	4	32
17	多 賀 城 市		110	26			42	178
18	七ヶ浜 町		4	3			2	9
19	利 府 町		23	9			9	41
20	大 和 町		29	6			11	46
21	大 郷 町			1				1
22	富 谷 市		2	2		1	3	8
23	大 衡 村		8	1			4	13
24	大 崎 市		82	50			66	198
25	加 美 町		19	9			17	45
26	色 麻 町		2					2
27	涌 谷 町		4	5			4	13
28	美 里 町		5				2	7
29	栗 原 市		69	59			41	169
30	登 米 市		18	11			12	41
31	石 巻 市		29	9		1	18	57
32	東 松 島 市		5	9			9	23
33	女 川 町		3	3			4	10
34	気 仙 沼 市		23	10			22	55
35	南 三 陸 町		10	13			7	30
	宮 城 県							3
	合計	5	1,525	384		8	507	2,429

第8-4表

平成28年度発掘調査遺跡一覧

受託契約による調査

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構
1	三陸沿岸道路建設(復興) (本吉・気仙沼地区)	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	石川原遺跡 卯名沢貝塚 小屋館城跡	気仙沼市	本発掘調査	955 100 2,812	4月12日～6月17日 6月21日～6月27日 7月4日～12月2日	調査担当 縄文時代:土坑,ピット,縄文土器,石器 遺構・遺物なし 中世:堀跡,溝跡など,陶磁器,石製品など

執行委任による調査

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構
1	県北高速幹線道路建設 事業・災害公営住宅整備 築館登米線(復興)	宮城県 (北部土木事務所栗原地域 事務所)	後沢遺跡	栗原市	確認調査	180	7月25日・8月8日・12月 26日・1月20日	調査担当 遺構・遺物なし

その他の調査(市町村協力)

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構
1	個人住宅	個人	坂下遺跡	大衡村	確認調査	22	4月4日	調査協力 遺構・遺物なし
2	防災集団移転促進事 業・災害公営住宅整備 事業(復興)	山元町	合戦原遺跡	山元町	本発掘調査	101	4月6日～5月30日	調査協力 古墳時代:古墳・横穴墓など,土師器・須恵器・ 鉄製品・金銅製品・玉類・石製品など 古代:竪穴住居跡・製鉄炉・木炭窯・土坑など, 土師器・須恵器・羽口・鉄滓など
3	ほ場整備(復興)	宮城県 (仙台地方振興事務所)	内館館跡ほか	多賀城市	確認調査 本発掘調査	6,389	4月11日～3月22日	調査協力 古代:道路跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡・小 溝状遺構など,土師器・須恵器・瓦など 中世:堀跡・溝跡・土坑など,陶磁器・石製品な ど
4	個人住宅	個人	長内遺跡	丸森町	確認調査	29	4月14日	調査協力 遺構・遺物なし
5	県道改良(復興)	宮城県 (東部土木事務所)	松葉板碑群	女川町	本発掘調査	122	5月9日～5月20日	調査協力 中世:板碑・整地層・溝跡
6	阿武隈川堤防築堤	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	台町遺跡	丸森町	本発掘調査	6,133	5月9日～1月31日	調査協力 縄文:貯蔵穴,縄文土器・石器など 古代:掘立柱建物跡・溝跡・土坑・ピットなど, 土師器・須恵器など
7	遊具設置	柴田町	上野遺跡	柴田町	確認調査	90	5月25日	調査協力 遺構なし,赤焼土器・石器
8	町道改良	丸森町	陣林城跡	丸森町	確認調査	30	5月31日	調査協力 遺構・遺物なし
9	作業道布設	個人	前川本城跡	川崎町	確認調査	20	6月8日	調査協力 遺構・遺物なし
10	作業道布設	個人	上橋城跡	川崎町	確認調査	130	6月8日	調査協力 遺構・遺物なし
11	漁業集落防災機能強化 事業(復興)	女川町	桐ヶ崎遺跡	女川町	確認調査	219	6月14日・7月1日・8月2日	調査協力 遺構なし,縄文土器
12	橋脚撤去(復興)	企業	大久保貝塚	南三陸町	確認調査	124	7月1日	調査協力 遺構・遺物なし
13	土砂採取	企業	川内遺跡	山元町	本発掘調査	19,000	7月4日～3月29日	調査協力 古代:掘立柱建物跡・竪穴住居跡・製鉄遺構・木 炭窯,土師器・須恵器・羽口・鉄滓など
14	メガソーラー建設	企業	亀岡遺跡	大衡村	確認調査	1,300	7月4日～7月26日	調査協力 古代:掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝跡,土師 器・須恵器など
15	橋梁改修(復興)	南三陸町	旭館跡	南三陸町	確認調査	24	7月22日	調査協力 遺構・遺物なし
16	作業場	南三陸町	秋の沢遺跡	南三陸町	確認調査	8	7月22日	調査協力 遺構・遺物なし
17	漁業集落防災機能強化 事業(復興)	気仙沼市	台の下遺跡	気仙沼市	本発掘調査	2,350	7月25日～11月11日	調査協力 縄文:掘立柱建物跡・貯蔵穴・遺物包含層など, 縄文土器・石器・土偶など 古代:竪穴住居跡・土坑など,土師器・須恵器な ど
18	防潮堤改修(復興)	宮城県 (東部地方振興事務所)	崎山遺跡	女川町	確認調査	12	9月7日	調査協力 遺構・遺物なし
19	防災集団移転促進事業 (復興)	女川町	宮ヶ崎B遺跡	女川町	確認調査	8	9月7日	調査協力 遺構・遺物なし
20	町道改良(復興)	南三陸町	寄木遺跡	南三陸町	確認調査	14	9月29日	調査協力 遺構・遺物なし
21	専用道布設	企業	横川北遺跡	七ヶ宿町	確認調査	75	10月5日	調査協力 遺構・遺物なし
22	排水路	宮城県 (玉城寺原補償工事事務 所)	要害遺跡	大衡村	確認調査	8	10月31日	調査協力 遺構・遺物なし
23	個人住宅	個人	松崎貝塚	柴田町	確認調査	14	11月2日	調査協力 古代:竪穴住居跡,土師器・須恵器など
24	化石観察施設	南三陸町	歌津城跡	南三陸町	確認調査	3	11月8日	調査協力 遺構・遺物なし
25	法面災害復旧	南三陸町	旭館跡	南三陸町	確認調査	40	11月10日	調査協力 遺構・遺物なし
26	防災集団移転促進事業 (復興)	女川町	宮ヶ崎B遺跡	女川町	確認調査	12	12月6日	調査協力 遺構・遺物なし
27	個人住宅	個人	深町貝塚・深町 館跡	柴田町	確認調査	91	12月9日	調査協力 遺構・遺物なし
28	残土造成	企業	深町貝塚	柴田町	確認調査	22	12月9日	調査協力 遺構なし,縄文土器
29	ほ場整備	宮城県 (北部地方振興事務所)	森館館跡	栗原市	確認調査	80	12月15日	調査協力 遺構・遺物なし
30	個人住宅	個人	館前貝塚	柴田町	確認調査	9	1月13日	調査協力 縄文:貝層,縄文土器・石器など
31	浄化槽	企業	萱刈場窯跡	大衡村	確認調査	5	1月11日	調査協力 遺構・遺物なし

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構
32	共同住宅	個人	西館館跡	柴田町	確認調査	83	1月13日	調査協力 遺構なし、土師器・須恵器
33	常磐道4車線化(復興)	東日本高速道路株式会社	大橋A遺跡・南原A遺跡	亶理町	確認調査	20	1月19日	調査協力 遺構・遺物なし
34	個人住宅(復興)	個人	上の山遺跡	南三陸町	確認調査	29	2月2日	調査協力 遺構・遺物なし
35	共同住宅	個人	亀岡遺跡	大衡村	確認調査	169	2月20日	調査協力 遺構なし、土師器
36	携帯電話無線基地局	KDDI株式会社	川前遺跡	丸森町	確認調査	4	3月3日	調査協力 遺構・遺物なし
37	河川改修	宮城県 (大河原土木事務所)	石神遺跡	丸森町	確認調査	66	3月6日	調査協力 遺構なし、土師器
38	作業道布設	個人	西館跡	川崎町	確認調査	15	3月13日	調査協力 遺構・遺物なし
39	漁業集落防災機能強化事業(復興)	女川町	田の島遺跡	女川町	確認調査	80	3月28日	調査協力 遺構なし、縄文土器

#### オ 報告書の刊行

刊行年月日	報告書名
2016 (平成28年12月)	宮城県文化財調査報告書第243集 「熊の作遺跡ほか―常磐線復旧関連遺跡調査報告書― 戸花山遺跡・狐塚遺跡・向山遺跡・熊の作遺跡・大塚遺跡・新中永窪遺跡・雷神遺跡・山ノ上遺跡」
2016 (平成28年12月)	宮城県文化財調査報告書第244集 「御駒堂遺跡・堂の沢遺跡―一般国道4号線築館バイパス関連遺跡調査報告書Ⅲ―」
2016 (平成28年12月)	宮城県文化財調査報告書第245集 「入の沢遺跡―一般国道4号築館バイパス関連遺跡調査報告書Ⅳ―」

(2) 文化財の保護

ア 史跡名勝天然記念物に対する現状変更件数については、次表のとおりである。(第8-5表参照)

イ 銃砲刀剣類の審査と登録

登録審査会を6回開催し、美術的価値のある銃砲刀剣類の登録を行った。(第8-6表参照)

ウ 第58回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

平成28年10月30日(日)に盛岡市を会場に開催され、本県から1団体(松園虎舞(気仙沼市))が出演した。

第8-5表 史跡・名勝等の現状変更件数

種 別	名 称	年 度										
		18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
特 別 名 勝	松 島	88	139	135	198	155	235	369	262	315	318	355
特 別 史 跡	多賀城跡附寺跡	10	18	11	8	13	6	4	4	5	9	10
そ の 他		18	38	31	30	22	41	46	21	20	20	27
計		116	195	177	236	193	281	419	287	340	347	392

第8-6表 銃砲刀剣類の登録件数

種 類	た ち	刀	わきざし	短 刀	剣	や り	なぎなた	その他	火なわ式銃砲	火打石式銃砲	管打式銃砲	計
件 数	6	70	64	39	0	15	1	1	18	0	4	218

3 文化財保護事業に対する助成等(震災関係を除く。)

(1) 国庫補助事業

本年度国庫補助事業として実施したものは次のとおりである。

第8-7表 平成28年度国庫補助事業 (単位:千円)

事 業 名	事 業 者	総事業費	内 訳			
			国庫補助金	県補助金	市町村費	所有者負担金等
瑞巖寺本堂ほか7棟 建造物保存修理	瑞巖寺	115,000	69,000	11,500	5,000	29,500
鹽竈神社門及び回廊 文化財建造物活用	鹽竈神社	82,500	41,250		-	
大崎八幡宮 文化財建造物活用	大崎八幡宮	24,980	12,490	-	-	12,490
洞口家住宅 建造物防災施設等	個人	6,900	5,520	345		
東照宮 建造物防災施設等	東照宮			783		
村田町村田伝建地区 保存修理	村田町	33,098	16,549	3,309	-	13,240
木造阿弥陀如来王坐像 美術工芸品保存修理	高蔵寺	18,500	13,875	1,156		
朴沢学園裁縫教育資料 史料調査	仙台市	1,879	939	-	-	939
多賀城跡附寺跡 史跡等総合活用整備	宮城県	13,000	6,500	-	-	6,500
多賀城跡附寺跡 史跡等総合活用整備	多賀城市	37,092	18,546	-	-	18,546
陸奥国分寺 史跡等総合活用整備	仙台市	457,707	228,853	-	-	228,854
雷神山古墳 史跡等総合活用整備	名取市	9,977	4,988	1,000	-	3,989
大木団貝塚 史跡等総合活用整備	七ヶ浜町	3,599	1,799	360	-	1,440
旧有備館および庭園 史跡等総合活用整備	大崎市	26,722	13,361	-	-	13,361
出羽仙台街道中山越 史跡等総合活用整備	大崎市	5,026	3,518	312	-	1,196
旧有壁本陣 史跡等総合活用整備	個人	2,268	1,134	207	463	464
仙台藩花山村寒湯番所跡 史跡等総合活用整備	栗原市	4,471	2,235	469	-	1,767
市内遺跡発掘調査等	仙台市	32,397	16,198	-	-	16,198
市内遺跡発掘調査等	多賀城市	16,227	8,113	-	-	8,113
市内遺跡発掘調査等	大崎市	3,300	1,650	-	-	1,650
市内遺跡発掘調査等	東松島市	5,126	2,563	-	-	2,563
市内遺跡発掘調査等	角田市	2,027	1,000	-	-	1,000
市内遺跡発掘調査等	白石市	5,231	2,612	-	-	2,612
市内遺跡発掘調査等	名取市	3,005	1500	-	-	1,505
市内遺跡発掘調査等	気仙沼市	712	356	-	-	356
市内遺跡発掘調査等	栗原市	3,009	1,500	-	-	1,500
町内遺跡発掘調査等	丸森町	2,993	1,496	-	-	1,496
町内遺跡発掘調査等	加美町	2,000	1,000	-	-	1,000
町内遺跡発掘調査等	松島町	6,530	3,265	-	-	3,265
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	多賀城市	7,402	3,701	-	-	3,701
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	仙台市	5,338	1,575	-	-	1,575
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	東松島市	3,150	1,575	-	-	1,575

多賀城跡附寺跡指定文化財管理(国有文化財管理)	多賀城市	208	166	-	-	166
第63回日本伝統工芸展仙台展	日本伝統工芸品 仙台実行委員会	3,251	1,496	-	-	1,755
福応寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬 重要有形民俗文化財保存活用整備	福応寺	123,589	98,871	317		
選定保存技術(石盤葺)伝承	佐々木信平	1,478	1,106	-	-	372
多賀城跡附寺跡買上げ(直接買上げ)	多賀城市	200,000	160,000	8,000	-	3,200
仙台郡山官衙遺跡群買上げ(直接買上げ)	仙台市	146,172	116,937	-	-	29,235
陸奥国分寺跡群買上げ(先行取得償還)	仙台市	127,785	102,227	-	-	25,558
仙台郡山官衙遺跡群買上げ(先行取得償還)	仙台市	65,983	52,785	-	-	13,198
特別天然記念物カモシカ食害対策	宮城県	1,364	909	-	-	455
県内遺跡発掘調査等	宮城県	31,591	15,795	-	-	15,796
指定文化財管理	宮城県	4,623	2,311	2,312	-	0

(2) 特別天然記念物カモシカ保護対策事業

南奥羽山系カモシカ保護地域におけるカモシカの生息動向・生息環境・食害発生状況などのカモシカ保護対策に関する調査を実施した。

(3) 県費補助事業

本年度県費補助事業として実施したものは、次のとおりである。

第8-8表

平成28年度県費補助事業

(単位：千円)

補助事業名	補助金交付先	補助金額	備 考
建造物保存修理事業	刈田嶺神社 保存修理	2,660	補助率 50%
建造物保存修理事業	銅造阿弥陀如来懸仏 保存修理	243	補助率 50%
史跡等保存整備事業	唐桑町下二本杉 環境整備	101	補助率 50%
史跡等保存整備事業	久保のカツラ 環境整備	383	
無形文化財・無形民俗文化財等保存事業	無形文化財保持者及び保持団体 新田柳心館 他 2個人	420	補助率 定額(140千円)
	無形民俗文化財保存団体 湯元田植踊保存会 他 46団体	1,380	補助率 定額(30千円)

4

災害復旧事業に対する助成等(震災関係)

(1) 国庫補助事業

国庫補助事業として実施したものは次のとおりである。

第8-9表

平成28年度災害復旧補助事業

(単位：千円)

事業名	事業者	総事業費	内 訳				
			国庫補助金	県補助金	震災復興基金	市町村費	所有者負担金等
齋藤氏庭園 史跡等総合活用整備	石巻市	127,000	88,900	-	-	-	38,100
男山本店店舗 建造物保存修理	個人	2,420	1,694	-	181	-	545
武山米店店舗及び住宅 建造物保存修理	個人	2,420	1,694	-	181	-	545

5 その他

(1) 宮城県地域文化遺産復興プロジェクト

東日本大震災により被災した無形の文化遺産等に対して、活動基盤の再構築を促し、文化遺産を活かして復興に資するとともに、その成果を多様な形で還元するため、記録作成、普及啓発、後継者育成等の事業を実施した。

事業期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日

実施主体：宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会

事業額：26,638,000円(平成28年度)

事業内容

事業1：情報発信・人材育成事業

①宮城県の文化遺産総合情報発信事業

②ヘリテージマネージャー養成事業

事業2：普及啓発事業

①伝統的工芸技術雄勝天然スレート普及事業

②宮城県の文化遺産(仙台筆筍)普及啓発事業

③地域に伝わる御正躰調査・活用事業

④獅子振披露会の開催・後継者育成事業

事業3：継承事業

①正藍染後継者養成事業

事業4：調査研究・記録作成事業

①柳生心眼流兵法記録作成事業

②宮城県の地域文化財に関わる調査活用事業

③身近な文化遺産を通じた地域再発見事業

④仙台藩大肝入吉田家文書整理・調査事業

⑤ヘリテージマネージャー修了者実践調査事業

## (2) 文化財レスキュー事業

東日本大震災により被災した文化財等（絵画、彫刻、古文書、考古資料など）を緊急に保全するとともに、貴重な文化財の廃棄・散逸を防止するため、平成23年4月に「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）」（実施主体：東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（事務局：東京文化財研究所））が立ち上げられ、行政機関や研究機関、学会などの連携・協力の下に、各地の多数の被災文化財等を救出して応急処置を施し、博物館などで一時保管が行なわれた。その後、10月には宮城県教育委員会、東北歴史博物館などが中心となって「宮城県被災文化財等保全連絡会議」を設置し、救援委員会とも連携・協力してレスキュー活動を進め、被災文化財の保護・保全に努めてきた。

### ○文化財レスキュー事業実績（平成29年3月現在）

64箇所、約24,000件

石巻文化センター収蔵資料・毛利コレクション等  
東松島市埋蔵文化財収蔵庫の資料等 数千点以上  
気仙沼市唐桑漁村センター民俗資料・生物標本等  
約400点

## (3) 被災ミュージアム再興事業

東日本大震災により被災した歴史博物館・美術館等が保有する、または寄託を受けた資料の修理、整理・データベース化、収蔵施設の整備や環境保全、展示公開等をおこない、博物館機能の再興を図るもの。文化庁の補助事業で、平成24年度から5ヶ年の計画で進められている。事業費の1/2が国庫補助金、残額は震災復興特別交付金でまかなわれる。平成28年度より補助対象が被災資料の修理のみに限定された。本県では、文化庁の事業採択を受け、平成24年度から本事業に取り組んでいる。

事業期間 平成24年7月1日～平成29年3月31日  
事業額 28,552,000円（平成28年度）

### 事業概要 第8-11

対象ミュージアム	事業内容	事業費
石巻文化センター	資料保存修理	5,963,760
気仙沼市教育委員会	資料保存修理	4,108,000
東北歴史博物館	資料保存修理	4,126,881
亘理町立郷土資料館	資料保存修理	8,877,692
歴史博物館青葉城資料展示館	資料保存修理	56,000,000

## 第2節 東北歴史博物館

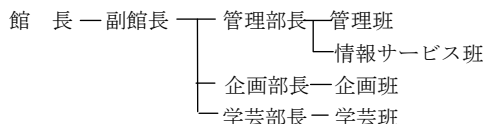
### 1 概要

東北歴史博物館は、宮城の地を拠点に東北全体の歴史及び文化を総合的にとらえ、その特色を世界に発信することを目的とした人文系博物館であり、誰もが気軽に学ぶことができる施設である。

企画展示、教育普及、調査研究及び歴史資料収集管理などの主要事業を積極的に行なった。

### 2 組織と予算

#### (1) 組織



#### (2) 予算

(決算)

項目	金額(千円)
管理経費	217,757
企画展示費	64,736
教育普及費	8,593
調査研究費	919
資料管理費	2,733
合計	294,738

### 3 事業

#### (1) 企画展示事業

##### ア 常設展示

総合展示室において、約3万年前の後期旧石器時代から1965(昭和40)年頃までの東北地方全体の歴史及び文化について、庶民の視点を重視しながらそれぞれの時代を特色づけるテーマを取り上げた課題展示を行っている。重要文化財を含む実物資料約1,400点の展示及び当時の様子を復元したジオラマ、イラストや地図・写真を使ったパネル、レーザーディスク等の映像装置、解説文パネルを適宜配置してわかりやすい展示を目指している。

テーマ展示室において、展示室1で「郷土玩具の世界―手島コレクション」「修復された被災文化財―小梁川・大梁川遺跡」を、展示室2で「杉山コレクション―アイヌ民族資料・刀装具」「福應寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬」「信仰の切り紙」を展示した。また、展示室3では「仙台の近世絵画―東洋の屏風」「仙台の近世絵画―仙台四大画家」など8テーマの展示を行なった。

##### イ 特別展示

- ・特別展「アンコール・ワットへのみち

楽園の神々と世界遺産を巡る旅

会期：平成28年7月16日～9月19日(57日間)

関連企画：

- a, 講座等

(ア) 連続講座「インドシナ半島の歴史と美術入門」

期日 第1回 平成28年7月16日

演題 「インドシナ半島1000年の彫像

カンボジア/タイ/ミャンマー」

期日 第2回 平成28年8月28日

演題 「アンコール時代の遺跡と美術」

講師 福岡市美術館学芸員 後藤 恒 氏

#### (イ) 講話①

期日 平成28年7月18日/8月26日/9月16日

演題 「サンタピアップみやぎボランティア会の活動  
とカンボジアの人々」

講師 サンタピアップみやぎボランティア会会員  
講話②

期日 平成28年7月18日/8月26日/9月16日

演題 「留学生が伝えるカンボジアの暮らし」

講師 東北大学工学部留学生 サカル・モロコット氏

b, 展示解説 全5回

観覧者数：27,676人

- ・特別展「日本人とクジラ」

会期：平成28年10月8日～12月4日(50日間)

関連企画：

- a, 映像上映会と対談「くじらのまち 鮎川」

期日 平成28年11月23日

上映 「鯨を追って」「鯨と生きる」

対談 鮎川の風景を思う会代表 成澤 正博 氏  
当館学芸員

b, 展示解説 全9回

観覧者数：5,546人

- ・特別展「工芸継承 現在から捉え直す国立工芸指導所」

会期：平成29年1月14日～2月26日(38日間)

関連企画：

- a, 職人による実演・ワークショップ「漆&木工」

期日 平成29年1月22・29日, 2月11・19・26日

講師 県内若手職人、学生

b, 展示解説 全8回

観覧者数：4,113人

#### ウ 企画展示

- ・「大白隠展―現代によみがえれ、下化衆生の精神―」

会期 平成28年4月16日～6月26日(63日間)

関連企画：

- a, 記念講演会①

期日 平成28年4月16日

演題 「現代によみがえれ、下化衆生の精神」

講師 花園大学国際禅学研究所顧問 芳澤 勝弘 氏  
記念講演会②

期日 平成28年6月18日

演題 「白隠禅画を読む」

講師 花園大学国際禅学研究所顧問 芳澤 勝弘 氏  
演題 「無二無三の道」

講師 福島県・福聚寺住職 玄侑 宗久 師

対談 芳澤 勝弘 氏・玄侑 宗久 師

#### (1) 教育普及事業

##### ア こども歴史館の運営

利用者数 24,569人(小・中学校・高校の利用数 延べ194校)

体験企画(解説員主催)：

「お正月遊び2017 ～お正月あそびのト・リ・コ♥～」

「輝け!キラキラらでん!」

イ 図書情報室の運営 利用者数 3,127人



ウ 今野家住宅の運営 利用者数 26,925人  
エ 講座等の行事

行事名	回数	参加数(人)	備考
博物館講座	37	2,638	館長講座, 古文書, 史料講読, 民俗芸能, 体験考古学, れきはく講座等
体験教室	8	192	トンボ玉, 鳥わな, しめ縄等
多賀城跡巡り	14	165	12回(5月~10月), 番外2回
体験イベント	3	7,283	春・秋・冬の年3回開催
民話を聞く会	6	209	多賀城民話の会, 利府民話の会, 秋保語りの会
民話を語ろう	6	522	
民話を学ぼう	7	520	博物館民話授業・出前民話授業
こども参加展示	3	29	ワークショップ
洞窟壁画アウトリーチ事業	10	452	洞窟壁画体験教室7校・博物館でのワークショップ

オ 広報と刊行物

- 『東北歴史博物館 平成27年度年報』
- 『東北歴史博物館研究紀要18』
- 『展示図録 大百隠展』
- 『展示図録 アンコール・ワットへのみち』
- 『展示図録 日本人とクジラ』
- 『パンフレット』
- 工芸継承 現在から捉え直す国立工芸指導所』
- 『展示図録 世界遺産ラスコー展』
- 『催事カレンダー(4月~7月, 8月~11月, 12月~3月)』

(2) 調査研究事業

東北地方の歴史・文化に関連する考古資料・民俗資料・文書資料・美術工芸資料及び建造物資料について調査研究を行い、その成果を研究紀要・展示解説書等の刊行物を通じて公表した。

ア 考古資料の調査研究

北村千代治コレクションを中心に整理作業を進め、その成果を当館研究紀要に公表した(南小泉遺跡をはじめ、高松貝塚、新地貝塚、女神洞窟遺跡、蛸ノ浦貝、下船渡貝塚、下新田下宿遺跡、大木囲貝塚、里浜貝塚等の考古資料)。

寄贈された大崎市北小松遺跡の掌紋付き土板の基礎的調査を行った。

イ 民俗資料の調査研究

宮城県及び東北地方の民俗資料を調査し、展示に活用できるようにするとともに、独立行政法人産業総合研究所東北センターより移管された旧工芸指導所関係資料について整理と調査研究を行った。また、ドイツ出身の日本文化研究者、ギンター・ツォーベル氏から寄贈された芸能関係の映像資料について整理を行った。

東日本大震災後の民俗調査事業として、「三陸沿岸の漁村と漁業習俗」調査の調査地を中心に、石巻市雄勝町、女川町竹浦、南三陸町戸倉波伝谷、陸前高田市横田・小友を対象に調査を実施した。この調査では、外部研究機関との連携を図り、随時共同調査を行った。

民俗誌作成事業(東北学院大学との連携)として引き続き大崎市三本木新沼地区の調査を実施し、成果を中間報告書「新沼(中谷地, 北谷地)の民俗」として刊行した。

ウ 歴史資料の調査研究

館蔵資料の資料保存と公開促進の目的で、継続中の「保呂羽村役場文書」のマイクロフィルム化を行った。また、一部

についてデータベース化を行い、ホームページ上で公開した。この他、石母田家文書の全文データベース化を実施している。

宮城県の地域文化財に関わる調査・活用事業として、仙台塩竈地区のうち、瑞巖寺(松島町)・東園寺(塩竈市)・覚範寺(仙台市)・満勝寺(仙台市)などの調査を行い、資料の写真撮影等を実施した。また、地域の歴史や文化財に対する理解を深めてもらう目的で講演会を実施した。

テーマ:「霊場松島の歴史と文化財―雄島を中心に―」

講師:新野一浩氏(瑞巖寺宝物館宝物課長)

日時:平成29年3月19日(日)(参加者:220名)

仙台藩大肝煎吉田家文書に関わる整理・調査事業を、平成26年度から文化庁の支援を得て継続して行っている。近世・近代の整理状況に関する情報を慎重に記録しながら、整理・調査作業を行い、仙台藩研究や地域研究に資することを目的としている。

エ 美術工芸資料の調査研究

館蔵の近世藩御用絵師及び工芸資料のうち、杉山コレクション刀装具について調査研究を進め、その成果の一部を本年度のテーマ展示等で公開した。

仏教文化及び美術に関する調査研究として、宮城県内、近隣県内の信仰拠点に伝わる資料の調査及びデータの整備を進めた。

東北の近世絵画に関する調査研究として、名所絵及び景観図等について宮城県内を中心とした東北地方に伝わる資料の調査を実施し、データの整理を進めた。その成果の一部を本年度のテーマ展示等で公開した。

宮城県域に数多く伝わる御正鉢等について、約100点の情報集成を行い、基礎資料の充実に努めた。さらに、御正鉢について理解を深めてもらう目的で学術講演会を開催した。

テーマ:「鏡の中の神仏」

講師:内藤栄氏(奈良国立博物館学芸部長)

日時:平成29年2月18日(土)

オ 建造物資料の調査研究

県内の古建築に関する調査研究として、金華山灯台(石巻市)、旧遠田郡役所(遠田郡涌谷町)の実測調査を行い、後者については研究紀要にて成果を報告した。他に、東北大学大学院工学研究科が所蔵する近代建築教育資料の調査を実施している。

昨年度末に報告書が刊行された宮城県近代和風建築総合調査について、資料調査が不足している沿岸部地域の補遺調査に取り組むものである。本年度は、南三陸町を調査地域に設定し、一次リストの作成を行った。

カ 保存科学の調査研究

今年度から科学研究費助成事業の採択を受けた「文化財収蔵のための緊急時における非文化財収蔵施設の活用と低コスト運営法の開発」について、これまで被災地の文化財一時保管施設等で継続して実施してきた環境調査の結果を包括的に整理し、より低コストで環境負荷が少ない施設運営の手段、内装仕様等の開発を試みている。本年度は、各非文化財収蔵施設の環境データを収集し、低コスト運営法開発のための基礎実験を実施した。

また、津波の被害を受けた資料からの揮発物質に関する調査として、水損被災紙資料から発せられる異臭成分を調査し、資料への影響とその原因、対策等について検討している。

線刻壁画の保存処理法調査として、宮城県山元町合戦原遺跡で発見された線刻壁画に保存処置を施し、奈良文化財研究所等の研究機関と協力して壁画の現地からの切り取りを行った。

土壁変色についての調査は、平成27年度に塗り直した今野家住宅土壁の一部に変色が見られたことを受け、東北芸術工

科大学の協力を得てその原因を調査したものである。

#### キ 歴史的災害展示研究

東日本大震災を経験した宮城県立の博物館として、災害の展示について来館者からのニーズが高まることが予想され、これに対応し、防災教育拠点としての役割を担う常設展示のリニューアルを見据えた分野横断の歴史的災害展示研究を平成26年度から3ヵ年計画で実施している。

計画3年目にあたる本年度は、研究会のまとめとして、常設展示の展示プラン作成を行い、それに伴う研究会を3回開催した(⑩「平成27年度研究会のまとめと今後の方向性」、⑪「常設展示リニューアルプランの方向性について」、⑫「常設展示リニューアルプランの詳細について」)。

### (3) 資料管理事業

考古・民俗・歴史・文書・美術工芸・建築資料等を収集し、保存及び管理を行い、展示・閲覧・貸出・調査研究などの活用に資する。

#### ア 実物資料

考古・民俗・歴史・文書・美術工芸・建築の各資料分野にわたって、約11万件の資料を収蔵している。

資料の館外貸出は29件725点であった。寄贈資料は、考古資料(掌紋付き土板)、民俗資料(民俗芸能関係記録資料等)、歴史資料(リードオルガン等、マッチラベル等、東北産業博覧會関係資料等、クジラヒゲ製銘々皿)、文書資料(仕入れ帳等)など12,408点であった。

#### イ 写真資料

収蔵実物資料を撮影したもの等を中心とした写真資料について、フィルムやプリントの形態で約7万2千件を収蔵している。今年度の写真資料等の貸出及び再掲載申込は、74件239点あった。

#### ウ 図書資料

今年度、受入・登録した寄贈図書は2,156冊、購入図書は91冊で、合計2,247冊である。当館が所蔵している図書資料の総数は約11万冊で、そのうち約8,000冊を図書情報室で開架し、来館者が自由に閲覧できるようにしている。また、収蔵図書資料の目録は、当館ホームページで公開している。

#### エ 保存処理

県内の遺跡から出土した脆弱な資料について、「埋蔵文化財出土遺物の保存処理」として国庫補助を受け、今年度は、多賀城跡外郭南辺等出土の木簡・木製品・建築部材など木製品83点、多賀城市山王遺跡出土の馬骨1点、山元町熊の作遺跡・戸花山遺跡・狐塚遺跡等出土の鉄鏃・鉄釘など金属製品77点について保存処理を行った。他に、他機関から依頼を受けた金属製品等31点の保存処理も実施している。

#### オ 保存環境管理・調査

資料の保存状況及び収蔵庫・展示室の保存環境に関する調査を行い、資料の保全に努めた。また、収蔵庫内の木質から発生する酸・アルカリなどの成分が資料に与える影響について継続的に調査している。この他、歴史資料の虫やカビの被害対策として実態を調査し、個別燻蒸消毒を行った。

また、県内外の諸機関から文化財の保存環境についての問い合わせ・調査協力依頼を受け、これに対応した。

### (5) 震災対応活動

#### ア 被災文化財の救援活動

当館は、2011年度から継続して石巻文化センターの毛利コレクションや文書資料、民俗資料などを中心に数万点を一時保管している。また、「宮城県被災文化財等保全連絡会議」の事務局としての運営、被災資料の保全、県内一時保管施設の環境調査、修理支援、資料保全ワークショップ開催など

様々な活動を実施した。

#### ① 被災資料の保管・収蔵

一時保管資料については、その多くを別館の浮島収蔵庫にて保管しているが、保存科学担当職員が定期的に巡回して環境管理を行い、さらに6月から10月にかけては、除湿器を稼働し、温湿度のチェックを行った。

(段落全文削除)

#### ② 被災資料の保全処置

県内被災資料について、劣化の進行抑制のため、脱塩、くん蒸、クリーニングなどの保全処置を行った(石巻市寿福寺資料、石巻文化センター被災資料)。

#### ③ 被災資料状態調査・方針協議等

被災資料・施設について状態調査を実施し、処置をはじめ保管や今後の保全・活用方針の策定に協力した(石巻市旧湊二小収蔵庫保管資料、南三陸町保管資料、宮城県榴ヶ岡収蔵庫保管資料、亶理町立郷土資料館収蔵庫保管資料、多賀城市水損文書処置・多賀城市埋蔵文化財調査センター収蔵庫保管資料、気仙沼市旧月立中学校保管資料、奥松島縄文村歴史資料館増設収蔵庫保管資料、海津見神社毘沙門天立像保管予定厨子、村田町城山文化財収蔵庫保管資料、東松島市毘沙門天立像)。

(旧④の全文削除)

#### ④ 被災資料の返却等

宮城県被災文化財等保全連絡会議の事務局として、被災資料の返却・移送に協力した。

#### ⑤ 被災資料の保存技術調査

被災資料由来の異臭対策(対象:亶理町立郷土資料館収蔵庫保管資料)及び被災資料由来の揮発成分について調査した。

#### ⑥ 情報公開

ホームページやエントランスのパネル展示により当館および後述する宮城県被災文化財等保全連絡会議の活動について公開した。

また、文化財保存修復学会第38回大会において「津波被災文化財施設等の空気質と文化財材質への影響、及び被災資料の異臭」について発表し(平成28年6月25・26日)、北海道東北保存科学研究会において「被災資料由来の揮発成分の調査結果」について報告した(平成28年7月10日)。九州国立博物館を中心とした「みんなでまもるミュージアム事業」の被災文化財一時保管施設見学の対応等もを行っている。

#### イ 宮城県被災文化財等保全連絡会議の運営・活動

宮城県被災文化財等保全連絡会議(以下 連絡会議)は、行政や組織の枠組みを超え、文化財レスキュー事業に関係する機関が連携、協働し、被災文化財等の保管理等を目的として平成23年度10月21日に組織された。連絡会議で当館は代表幹事兼事務局を務めており、調整役として、他館との連携を図りながら、全体会議・幹事会の開催(各3回)、資料の返却・移送、保全活動、情報公開、活動を総括した報告書の刊行(1,000部)、公開シンポジウムの開催(「被災した文化財を次世代に伝えるために」)等の諸活動にあたった。なお、連絡会議は一定の役割を終えて本年度末で解散した。

#### ウ 宮城県復興支援調査への協力

震災復興事業に伴って宮城県教育庁文化財保護課が行う埋蔵文化財発掘調査に対して、一年間を通し職員が協力にあたった(多賀城市内館跡・山王遺跡)。

平成28年度東北歴史博物館入館者数

月区分	開館日数	入館者数(人)
4月	26	7,805
5月	27	11,088
6月	26	18,392
7月	27	15,388
8月	26	18,069
9月	26	23,496
10月	26	14,429
11月	26	8,537
12月	16	3,516
1月	24	6,600
2月	24	8,244
3月	27	9,484
計	301	145,048

## 第3節 宮城県多賀城跡調査研究所

多賀城跡は奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれ、奈良時代には鎮守府も併置された役所の跡である。規模は約900m四方で、多賀城市市川のほぼ全域と浮島の一部に及ぶ。また、南東約1.2kmの多賀城市高崎には付属寺院の多賀城廃寺跡がある。これらは大正11年に史跡に指定され、さらに昭和41年には特別史跡に昇格指定された。昭和30年代後半からの急激な諸開発の波は多賀城跡の周辺にも及び、平城宮跡や大宰府跡と並んで国の三大史跡とされる重要な文化遺産である多賀城跡も破壊されてしまう恐れが生じてきた。そこで、宮城県教育委員会は昭和44年4月に宮城県多賀城跡調査研究所を設置し、多賀城跡の解明と保存を目的とする発掘調査、およびその成果に基づく環境整備を計画的に実施することにした。

### 1 事業内容と目的

当研究所の事業内容と目的は以下のとおりである。

#### (1) 多賀城跡発掘調査事業

特別史跡多賀城跡附寺跡の発掘調査を実施し、古代の多賀城の実態を解明し、あわせて環境整備のための資料を得る。

#### (2) 多賀城跡環境整備事業

発掘調査の成果をもとに多賀城跡附寺跡の遺構について、保存措置を講じるとともに、復元表示などの環境整備を行い、歴史公園として一般に公開する。

#### (3) 多賀城関連遺跡発掘調査事業

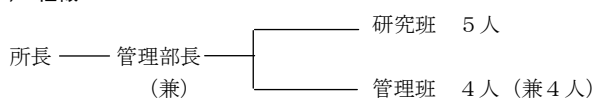
古代の多賀城に関連する県内の遺跡の発掘調査を実施し、多賀城を中心に展開された東北の古代史を多角的に解明する。

#### (4) 遺構調査研究事業

古代城柵官衙遺跡の資料を全国規模で収集し調査研究する。

### 2 組織・予算

#### (1) 組織



なお、当研究所では第8-13表の学識経験者からなる多賀城跡

調査研究委員会を組織し、その指導・助言を得ながら各事業の推進を図っている。

第8-13表 多賀城跡調査研究委員会委員名簿

氏名	職	専門分野
委員長 佐藤 信	東京大学大学院教授	古代史学
副委員長 飯淵 康一	宮城学院女子大学特任教授	建築史学
委員 阿子島 香	東北大学大学院教授	考古学
〃 鈴木 三男	東北大学大学院名誉教授	植物学
〃 小野 健吉	奈良文化財研究所副所長	庭園史学
〃 松村 恵司	奈良文化財研究所長	考古学
〃 櫻井 一弥	東北学院大学准教授	建築 デザイン学
〃 栗野 隆	東京農業大学助教授	造園学
〃 古瀬奈津子	お茶の水女子大学大学院教授	古代史学
〃 熊谷 公男	東北学院大学教授	古代史学

#### (2) 予算

ア 多賀城跡発掘調査事業費	9,224千円
イ 多賀城跡環境整備事業費	13,000千円
ウ 多賀城関連遺跡発掘調査事業費	0千円
(以上、50%国庫補助事業)	
エ 遺構調査研究費	110千円
オ 管理費	272千円

### 3 平成28年度事業の概要

#### (1) 多賀城跡発掘調査事業

平成28年度は多賀城跡発掘調査第10次5カ年計画の3年次目にあたり、坂下地区で第90次調査を行った。調査面積は約430㎡、調査期間は平成28年5月23日～平成28年10月16日である。

調査は、政庁南面地区の環境整備に備えて、政庁南大路と沢地を挟んだ西側の丘陵裾を調査し、8世紀前半の多賀城創建時(第I期)の外郭南辺跡を発見した。外郭南辺は土台となる幅5m前後、高さ約0.4mの盛土による基礎地業の上に造られており、幅約2mの築地塀とみられる積土遺構が高さ0.3mほど残存していた。以前に調査した湿地内での南辺は材木塀であったが、西側の丘陵裾からは築地塀に変わるこ

が判明した。

8世紀後半の第Ⅱ期には外郭南辺が南に移転し、第Ⅰ期南辺の跡地は政庁南大路と西側の丘陵を結ぶ道路として使われたことが明らかになった。道路は築地塀の上部を削って下部の両側に整地をし、上幅約4.5m、高さ1mの盛土により道路を作り出したもので、政庁南大路から沢地を横断し、ハ字状に広がりながら丘陵に取り付く。沢地の埋没が進んで両脇が埋まり始めると、側溝を設けて維持されており、10世紀初め頃まで存続している。

その後、沢がさらに埋没して道路部分を含めて全体が平坦化すると、広く畑地として使われたことも判明し、創建時から10世紀代までの調査対象地の変遷が明確に捉えられた。政庁南面地区では第Ⅱ期の様子の復元を目指した環境整備を予定しているが、第90次調査ではそれを進めるうえで有効な資料となる成果が得られた。

## (2) 多賀城跡環境整備事業

平成28年度は政庁南面地区の総合的な整備を目的とした第10次5カ年計画の3年次目にあたり、政庁南門跡から南に伸びる政庁南大路の復元舗装工、政庁南面地区北東部の林地の間伐を実施したほか、今後、総合的な整備工事を予定している同地区の設計準備として、計画対象地4.2haの地形測量を行った。また、通常の事業とは別に平成27年度に策定した整備基本計画において課題としたサイン計画について、これまで設置してきたサイン施設の現状を整理し、今後の特別史跡多賀城跡附寺跡の環境整備事業において実施する新規サイン施設の設置および既存施設の更新を検討する際の基本的な考え方を示すため、『特別史跡多賀城跡附寺跡サイン計画』を策定した。

## (3) 多賀城関連遺跡発掘調査事業

東日本大震災による県内の復旧事業を優先するため、当面は事業を休止している。

## (4) 遺構調査研究事業

本事業は、多賀城跡及び関連遺跡の発掘調査で検出した諸遺構の保存と活用を目的として、他の遺跡の例と比較検討をしながら基礎的研究を行うものである。平成28年度は国府の形態に関する調査データを収集するため岡山県美作国府跡、城柵官衙遺跡の築地跡に関する調査データを収集するため秋田県秋田城跡を調査した。

## (5) 特別史跡多賀城跡附寺跡の現状変更申請への対応

当研究所では、特別史跡内の遺構と歴史的景観の保護に努めているが、やむなく特別史跡内の現状を変更するにあたっては、申請者及び関係機関と遺跡保護のために慎重な協議を行い、遺跡に影響がない範囲で最小限の現状変更に伴う調査を行っている。

平成28年度の現状変更申請は擁壁設置工事が2件、説明板設置工事、プレハブ設置工事、木竹抜根処理、供養塔改修工事が各1件で、いずれも史跡の環境整備、史跡内における生活環境上の必要性からやむをえないものである。このうち、擁壁設置工事は掘削範囲がやや広いため確認調査を実施することとしたが、他は史跡への影響が軽微と判断されたことから工事立ち合いによる対応とした。また、供養塔改修工事については、事業者の都合により本年度の工事着手が難しいため、次年度の対応とした。

## (6) その他

### ア 震災復旧事業に伴う発掘調査の支援

県内各地域の早期復興を目指して災害復旧事業に伴う発掘調査の支援に職員1名を常時派遣した。

### イ 現地説明会の開催・ホームページによる広報

発掘調査の成果を一般の方々に公開するために、下記の現地説明会と報道発表を行った。

多賀城跡第90次調査現地説明会 平成28年9月17日  
吉野 武・廣谷和也

また、上記調査の成果や進捗状況をはじめ環境、整備や当研究所の事業について、随時ホームページにて紹介・公開による普及を行った。

### ウ 各委員会などへの協力

須田良平 多賀城市文化財保護委員会委員  
史跡伊治城跡調査整備指導委員会委員  
白石市博物館建設委員会委員  
角田市角田郡山遺跡発掘調査指導委員会委員  
第43回古代城柵官衙遺跡検討会世話人代表  
秋田県弘田柵跡環境整備審議会委員  
秋田市秋田城跡環境整備指導委員会委員  
盛岡市志波城跡史跡整備委員会委員  
白石市内遺跡資料整理指導

須田良平・吉野 武・三好秀樹・白崎恵介  
多賀城南門等復元整備検討委員会議

吉野 武 国立歴史民俗博物館共同研究員  
白崎恵介 石巻市近代建築保存整備調査研究専門委員会委員  
釜石市橋野高炉跡史跡整備検討委員会委員

廣谷和也 宮城県入の沢遺跡写真撮影協力

### エ 講演会・研究会への協力・執筆など

高橋 透 「陸奥国府域における掘立柱廂付建物の特質」  
『宮城考古学』第18号執筆 平成28年5月15日

- 廣谷和也「多賀城跡第 88・89 次調査」  
 平成 27 年度多賀城市遺跡調査報告会報告  
 多賀城市市民活動サポートセンター  
 平成 28 年 7 月 2 日
- 須田良平「特別史跡多賀城跡附寺跡整備基本計画の概要」  
 同説明会講師 天理教分教会  
 多賀城市市民活動サポートセンター  
 平成 28 年 7 月 7 日・9 月 24 日
- 廣谷和也「多賀城跡の調査の歴史」  
 史都多賀城歴史観光講座講師  
 多賀城市公民館 平成 28 年 9 月 29 日
- 白崎恵介「多賀城跡整備の将来像」  
 史都多賀城歴史観光講座講師  
 多賀城市公民館 平成 28 年 10 月 20 日
- 須田良平「史跡阿津賀志山防塁について」  
 東北歴史博物館友の会第 9 回歴史探訪会講師  
 史跡阿津賀志山防塁 平成 28 年 11 月 6 日
- 吉野 武「宮城・多賀城跡」『木簡研究』第 8 号執筆  
 平成 28 年 11 月 25 日
- 吉野 武「多賀城跡の最近の調査と出土木簡」  
 第 38 回木簡学会研究集会報告  
 奈良文化財研究所平城宮跡資料館  
 平成 28 年 11 月 25 日
- 吉野 武「付記 熊の作遺跡出土の木簡」宮城県文化財調査報告書第 243 集執筆  
 平成 28 年 12 月 9 日
- 廣谷和也「多賀城跡第 90 次発掘調査」  
 平成 28 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表  
 東北歴史博物館 平成 28 年 12 月 11 日
- 高橋 透『入ノ沢遺跡』宮城県文化財調査報告書第 245 集共著  
 平成 28 年 12 月 26 日
- 吉野 武「多賀城跡調査の現状と課題」  
 国立歴史民俗博物館基幹研究研究会報告  
 国立歴史民俗博物館 平成 29 年 1 月 7 日
- 廣谷和也「多賀城跡第 90 次調査」  
 第 43 回古代城柵官衙遺跡検討会成果報告  
 東北歴史博物館 平成 29 年 2 月 25 日
- 吉野 武「多賀城第 I 期の瓦窯跡の特徴と変化」  
 第 43 回古代城柵官衙遺跡検討会特集報告  
 東北歴史博物館 平成 29 年 2 月 26 日
- 高橋 透「東北地方における古代の塩の生産と流通」  
 公開講座「ひたちなか市の考古学」講師  
 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター  
 平成 29 年 3 月 11 日
- 白崎恵介「特別史跡多賀城跡附寺跡環境整備事業の概要」  
 多賀城市観光協会観光ボランティアガイド連絡  
 会議講師  
 多賀城市中央公民館 平成 29 年 3 月 16 日

オ 連携大学院

- 須田良平（客員教授）  
 文化財科学研究演習 I 「多賀城跡の研究の現状と整備」
- 須田良平（客員教授）・吉野 武（客員准教授）  
 文化財科学研究実習 I 「古代遺跡調査の方法と実践」

カ 研究成果刊行物

『宮城県多賀城跡調査研究所年報 2016 多賀城跡』

『多賀城跡 外郭跡 I -南門地区-』

平成 29 年 3 月 27 日